

農林課長の仕事宣言！ 進行管理表 ①

農林課長

井田 勝

重点事業の概要 [事業名：生産者と消費者の交流]

[目標値：5年後の給食における地元産品使用率 54.5%]

- 生産者と消費者の交流事業：[事業内容]・小学校給食の食材提供事業の検討を行う。
- ・生産者と消費者の交流イベント事業を進める。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	第15回米米コンテストの募集を「レッツチャレンジ！マイおにぎらず！～今年の夏は料理にちょうせん～」をテーマに行った。今年度においても小学生から中学生まで908点の応募があり、審査基準に身近な食材の活用を促し地産地消への推進を図り、二次審査コンテストへの12点を選考した。
	自己評価	米米コンテストについては、夏休みの課題等全校で取り組む学校がある。今年度のテーマは小学低学年から取り組めるものとなっており、小学1、2年生で35名の応募があり、昨年度の16名から大幅に増加した。レシピについても地元産の野菜を使ったものが見られ、地産地消につながる取組となっている。
	下半期への対応	生産者と消費者の直接的な交流イベントを通じて更なる地産地消の拡大に努めたい。
下半期	取組実績	「とれたて鳥栖産品」など市報等による地元農産物や農業者を紹介した。 また、NPO団体において農業体験を実施するにあたり、参加者の募集やPR等ホームページへの掲載等を行った。 学校給食週間においては、市内の各小学校で農業生産者（農業委員等）24名による地域農産物の紹介や児童からの質問対応、また児童と一緒に給食をとるなど交流会を実施した。
	自己評価	「とれたて鳥栖産品」として市報等に掲載された内容について、農産物の販売所等の問い合わせ等があり、地元農産物のPRが図れた。 東部農林事務所や三神農業改良普及センター等関係機関と連携し、計画的に事業を実施した。
	目標値の達成状況	地元農産物や農業者等の情報を発信し、PRが図れた。また、農業委員等と連携し、学校給食週間での交流事業の取組みがより一層図れた。
	次年度への対応	農業体験等に取り組む法人等と連携し、生産者と消費者の交流を図る場の提供に努めたい。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

今後とも関係機関と連携を取りながら取り組むこと。

下半期

関係機関と調整し取り組みを進めること。

農林課長の仕事宣言！ 進行管理表 ②

農林課長 井田 勝

重点事業の概要 [事業名：高収益農産物の導入]

[目標値：5年後の認定農業者数 68 経営体、家族経営協定割合 35%]

○高収益農産物の導入事業：[事業内容] 地域農産物の調査、導入農産物の検討、新規就農者への事業の拡大補助事業を活用した作業機械の導入

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	新規農産物として取り組んでいるミニキャロットの事業拡大について、J A 及び東部農林事務所と協議を行なった。作業用機械について、平成 28 年度早期に導入予定とし補助金に関する事項等の確認を行った。
	自己評価	ミニキャロット(プチキャロット)のブランド化の推進については、生産者、J A、県機関、市町で連携し、昨年度より継続して活動を行っている。
	下半期への対応	ミニキャロットについては、作付規模拡大について生産者、J A 等と協議を行なう。 マコモタケについては、昨年度に引き続き佐賀バルーンフェスタへの出店を行いPR活動に努める。
下半期	取組実績	バルーンフェスタ会場において、生産者によるマコモタケの販促を普及センター及びJ A 等と連携し実施した。 ミニキャロットについては、関係機関協議のうえ、J A が国の補助金を活用し、生産農家支援として洗浄機の導入を行った。 認定農業者については、新たに1名認定を受けられた。
	自己評価	マコモタケについては、関係機関と連携し、継続的な取組として事業が実施できた。 認定農業者については、自立経営を目指す農家の推進が図れた。
	目標値の達成状況	バルーンフェスタ会場におけるマコモタケの販促により、認知度の向上が図れた。 認定農業者については、現在71経営体であり目標は達成されている。
	次年度への対応	ミニキャロットの生産・普及の拡大を図るため、選別調整機の導入計画等関係機関と連携し新たな地域ブランドとなるよう取り組む。 認定農業者については、農業生産法人における認定申請が見込まれ、新たな担い手として、経営改善計画等の作成を連携して取り組む。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

関係機関と連携を取りながら取り組むこと。

下半期

今後も関係機関と連携を取りながら取り組むこと。